

UNO 宇野ひかり HIKARI



～ 20歳を迎えて ～

20歳という節目の年を迎えて、今の率直な感想は『速かった』とそれだけでした。20歳になれば、自分はどうなるのだろう、どう変わるのだろうと小さい頃からそう思っていました。

10歳の頃に小学校で行われた二分の一人式で、10年後の未来の自分に向けて作文を書く際には、もうひと回り大きくなる自分が想像もできなくて、何を書いているのか分からず四苦八苦しました。

年齢が上がるにつれて、一年という時間の体感速度も速くなり、中学・高校の学生時代は嵐のように過ぎ去っていきました。周りの友達にも恵まれ、泣いたり笑ったり良い学生生活を送れたと思います。しかし、その中でも20歳になった自分を上手く想像はできませんでした。

20歳を迎えて、18の自分や15の自分と何が違うかと問われると、何も違わないと答えるしかありません。ある事柄に対する考え方や友達との付き合い合い方、家族に対する感情など外郭は変わらずとも、その内郭の細かな所は誰もが変わっていると思います。しかしながら、結局のところ地続きな自分なのでそこから大きく変わることはありません。19世紀のフランスの哲学者が発案したジャーネーの法則の通り、年齢が上が

るにつれて一年に対する体感速度は速くなっていきます。これまでの20年間よりも、きっと今から30歳までの10年間やこれからの人生はもっと速いことでしょう。何かの節目に自分が大きく変わることはほぼありませんし、急に変わることもありません。だからこそ、自分自身と大切に向き合って、速くなっていく一日、一年を情性に過ごさず目標や夢を持って、振り返った時によく頑張ったなと誇りに思える人生にしていきたいと思います。

また、これまで健康にのびのびと育ててくれた両親に親孝行をしたいと思えます。これまでも沢山の我が儘と迷惑をかけてきましたが、これからもきつとかけると思いますが、いつものように見守ってくれると嬉しいです。

この京丹后市という場所は、今ここにいる20歳の皆さんの二つとない故郷です。小さな頃から親や親戚だけに支えられて生きてきたのではなく地域の方々に見守られながら育ってきました。帰る場所であったり安心できる場所というのがあるということを中心に置いておけば、しんどくなったり嫌になったりした時に心の拠り所になりえるでしょう。私はそんな故郷に、これから何か恩返しが出来ればと思います。

令和6年3月17日 宇野ひかり